

米中对立時代の日中関係

拓殖大学海外事情研究所教授
富坂聰とみ さか さとし

- * 中国の日常と伝えられる情報との落差
- * 恒大問題で不動産バブルは崩壊しない
- * 来春の中国共産党大会を前にした反富裕層政策
- * 中国が靖国参拝を批判する根拠
- * 南シナ海問題はなぜ起きたのか
- * 台湾問題をどう考えるか
- * すべては「共同富裕」政策が出発点
- * 学習塾全廃方針の理由は何か
- * 「共同富裕」政策の狙いは中間層の拡大
- * 台湾問題で注視すべきは米国の言動の変化



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は、久しぶりの対面形式で講演を再開することができました。不運にも台風にぶつかってしまいました。皆さんの出足がちょっとよくなっているのでございますが、これからはしばらく大丈夫だと思えますので、来週以降もよろしくお願ひしたいと思います。

今日は、中国問題につきまして、拓殖大学の富坂先生においでいただきました。こちらでは3年ちょっと間が空いてしまいましたが、富坂先生は1964年のお生まれで、中国の北京大学に留学され、その後、雑誌記者等を経て現在、拓殖大学におられます。現地の情報、雰囲気は今直接中国へ行くことは難しいですが、現地経験が豊富なために、向こうの事情についてはた

いへんお詳しい。現在、中国は不動産の問題とか様々な問題が噴出しておりまして、そういった問題の背景、それから米中関係と日中関係の今後について、今日はリアルなお話が伺えると思います。

それでは富坂先生、よろしくお願ひいたします。（拍手）

中国の日常と伝えられる情報との落差

富坂 皆さんこんにちは。私も実は久しぶりの対面ということで少々緊張しております。そして、ものすごく張り切ってやってきました。資料を詰め込み過ぎて、はたして70分で終わるのか心配です。皆さんにはぎゅっと中身の濃い話をしたと思います。